

平成22年度 行財政再生シート

NO. 8-1

項目名	観光施設	事業名	観光プラザ管理運営事業
担当部	環境経済部	担当課等	商工観光課

この事業に係る費用を市民一人あたりに換算すると **268** 円 です。

※事業費（平成22年度予算額）を人口5万5千人で除した額

1. 事業の目的・概要等

(1) 事業の目的	常滑市の観光情報の発信及び商工業の振興を促進。			
(2) 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年4月に常滑駅コンコース（ウィルセラ内）に開設。面積198㎡。 常滑駅ビル㈱へ管理運営を委託、平成18年度から同社へ指定管理。 観光案内、物産紹介、ギャラリー運営。 平成20年9月、ピジットジャパン案内所（V案内所）に指定。英語会話のできるスタッフ配置、外国語パンフ等 			
(3) 実施・運営方法		1. 市が直接実施・運営		
	○	2. 外部へ委託または指定管理	委託先等	常滑駅ビル株式会社
		3. 団体等への補助金により実施	実施主体	
		4. その他（ ）		
(4) 実施期間など	開始年度	平成14年度	終了予定年度	なし
(5) 根拠法令など	常滑市観光プラザの設置及び管理に関する条例			
(6) 近隣市町・類似団体等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 半田市観光協会（小栗家住宅、クラシティ内） 南知多町観光協会（内海駅前） 			

2. 事業費の推移

(千円)

-		H19決算額	H20決算額	H21決算額	H22予算額	
支出	事業費	13,866	13,793	13,372	13,347	
	人件費※	正規	0.2	0.2	0.2	0.2
		再任	1,600	1,560	1,380	1,380
		臨時	0	0	0	0
	支出計	15,466	15,353	14,752	14,727	
	財源	国・県支出金				
地方債						
その他（ ）						
一般財源		15,466	15,353	14,752	14,727	
市民1人あたり(円)★	281	279	268	268		
投資事業費	全体事業費		~H22未見込	H23以降	進捗率	
	うち一般財源		うち一般財源	うち一般財源	(H22未見込)	

※人件費の算出単価 ・正規職員 : H19/8,000千円、H20/7,800千円、H21/6,900千円、H22/6,900千円
 ・再任用職員 : H19/2,900千円、H20/2,800千円、H21/2,600千円、H22/2,400千円
 ・臨時職員 : H19~H22/1,000千円

★支出計を人口55,000人で除した額

3. 事業実績・計画と成果等

	H19実績	H20実績	H21実績	H22計画
事業実績	(358日開館) ・入場者数31,743人 (うち外国人334人) ・問合せ件数850件 ・ギャラリー売上9,672,800円	(357日開館) ・入場者数38,432人 (うち外国人491人) ・問合せ件数1,344件 ・ギャラリー売上9,844,755円 ・H20.9～ビジットジャパン案内所を開所	(357日開館) ・入場者数37,301人 (うち外国人436人) ・問合せ件数1,188件 ・ギャラリー売上7,363,825円 ・H21.6～常滑市観光協会事務所を開所	(開館予定357日) ・ギャラリー開催予定25回
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用者にとって、やきもの散歩道など観光施設へ誘導する最初の案内所。益々、重要度、期待度が増加。 ・とことこバスへの利用者誘導にも寄与。 ・ビジットジャパン案内所の開所で、世界の観光パンフへ外国人歓迎案内所として位置づけ。外国語パンフ、英会話可能な職員の配置など外国人への対応を拡充。 ・ギャラリー売上は、景気の後退もあり、減少傾向。 			

4. 事業の必要性

必要性	チェック数	法定等の実施義務がある	緊急度が高い	レ	類似(代替)事業が存在しない	
	5	実施目的が未達成である	レ	政策・施策の中で優先度が高い	レ	受益者が多く市民ニーズが高い
		レ	市以外では実施不可能である	レ	継続しなければ効果が表れない	市長の公約に掲げている
	廃止・凍結・休止・先送りした場合の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設を廃止した場合、駅前での観光情報の発信、電話・メール等での観光案内が全てストップし、観光立市の実現をめざす本市にとって重大な影響を及ぼすことになると思われる。 				
	想定される代替事業	○	なし	-		
	市既存事業の活用	市(担当課)				
		既存の事業				
	民間事業の活用	想定事業主体				
		代替事業				

5. 事業の自己評価(今後の方向性・課題など)

<ul style="list-style-type: none"> ・本施設は、本市(常滑駅)に訪れた観光客等(外国人含む)が最初に訪れる施設。まさに「おもてなしの玄関口」であり、親切丁寧に観光案内等を行い、市のイメージアップを図るための観光まちづくりに不可欠な施設である。 ・今後、指定管理者を常滑駅ビル株から常滑市観光協会へ移行するなど、観光推進体制を拡充していく考えである。
